

2015年7月15日

「ボルドー展」開幕と共に日本人を魅了・陶醉させた  
アキテーヌ・ボルドー

上野の国立西洋美術館の「ボルドー展 -美と陶醉の都へ-」の開幕と合わせ、フランス観光開発機構はアキテーヌ地方観光局、ボルドー観光局、モンティニャック・ラスコー洞窟壁画アート国際センターから成るデレゲーションを6月22日～24日の日程で迎えた。

このアキテーヌ・ボルドーミッションでは2つの特別プログラムが展開された。

6月23日(火)：フランス大使公邸でのソワレは、ボルドー市とボルドー観光局の主催で、グラン・クリュ・クラッセ 1855 (メドック&ソーテルヌ)委員会とボルドーワイン・インタープロフェッショナル委員会の協力を得て開催された。当ソワレは「[欧州ベスト・デスティネーション 2015](#)」を受賞したボルドー市の観光、文化、美食における魅力のすべてを披露するもので、ワイン業界、政府関係者、文化、メディア、観光の各界から招待された150名の特別ゲストが最高級のシャトー・ディケム3本を含むメドックとソーテルヌの最高峰ワインを堪能した。ピエール・オテイザのバスク料理、オリヴィエ・オドス料理長のボルドー料理の軽食、ピエール・エルメ・パリのスイーツが祝宴のワインの味をさらに引き立てた。

6月24日(水)：セミナー&ランチ・レセプションが上野精養軒にて開催され、40名の旅行業関係者、40名のジャーナリストが参加した。セミナーでは、ブリジット・ブロック氏(アキテーヌ地方観光局局長)からアキテーヌ地方の豊かな観光資源、美食、文化、歴史遺産についての紹介があり、続いてニコラ・マルタン氏(ボルドー観光局局長)からボルドー市の新名所、とりわけ2016年夏にオープン予定の[ワイン文明博物館](#)についての紹介があった。この博物館は、ボルドーの歴史と発展を象徴するような現代的建造物としてガロンヌ川沿いに登場し、ワイナリーのゲートウェイとして注目を集めることが期待される。ギョーム・コロンボ氏(モンティニャック・ラスコー国際洞窟壁画芸術センター長)は2016年にオープン予定の同センターならびに2016年末の東京、福岡、仙台での開催が大いに期待されているラスコー展について言及した。レジーヌ・マルシャン氏(アキテーヌ地方観光局総裁)はアキテーヌ地方のダイナミクスを再度強調し、セミナー参加者をできるだけ早く現地でも迎え入れたいと述べた。

この日のハイライトは、会場を国立西洋美術館に移して行われた「[ボルドー展 -美と陶醉の都へ-](#)」の作品選定責任者である陣岡めぐみ氏(国立西洋美術館学芸員)の特別講演会と同展覧会の鑑賞で、(株)TBSテレビ事業局文化事業部のご協力を得て行われた。尚、同展覧会には7月1日に安倍首相が訪問した。



ボルドー展  
-美と陶醉の都へ-

ボルドー市は、オンライン投票により「欧州ベストデスティネーション2015」に選ばれた



2015年6月23日 大使公邸でのソワレ：左より フランス観光開発機構在日代表メイエール、ボルドー観光局局長マルタン氏、グラン・クリュ・クラッセ 1855 (メドック&ソーテルヌ)委員会 会頭 カステジャ氏、駐日フランス公使 パレツ氏、ボルドー市 文化担当助役 ロペール氏



左から アキテーヌ地方観光局総裁 マルシャン氏の乾杯挨拶。アキテーヌ地方観光局局長 ブロック氏、ボルドー観光局局長 マルタン氏、モンティニャック・ラスコー国際洞窟壁画芸術センター長 コロンボ氏によるプレゼンテーション

